

Computer Report

Vol. 58 No. 10 10月号 (通巻 769号)

はじめの言葉

■やりたい放題という表現がある。しかし実際の人間社会では、なかなかありそうであり得ない事象だというのが常識。ところが、かつての奢る平氏でも憚ったような権力者ぶりを見せているのが安倍政権である。今回の自民党総裁選でも言及されたモリカケ問題、その横暴ぶりは、誰がどう考えてもおかしい。安倍総理に対抗した石破元幹事長の言辞からも察せられるように、同じ自民党員であっても理解しがたいことが見て取れる。

■特に、モリカケ問題に対して小泉進次郎党筆頭副幹事長も「ウンザリ」の言辞を吐いている。この他にも、多くの自民党代議士／自民党員にしても、モリカケ問題での横暴ぶりを疑問視している人が多いことだろう。然るに、総裁選の結果からは、圧倒的多数で安倍総裁の所業を是認している。まさに「自民党主流にあらずんば人（国民）にあらず」と言わんばかりである。歴史から学ぶものは、人それぞれだと改めて思わされた。

■どう鼻屑目に考えても「モリカケ問題」に納得できている国民は、自民党員も含めて少ないと言えるだろう。しかし総裁選では国会議員を中心に圧倒的多数の支持を受けた。何故か。どうもその辺に自民党関係者の真実が秘められているように思える。寄らば大樹と言うが、改めてその文言を痛感させられる。歴史には清廉潔白な正義よりも毒饅頭を喰らう事実も刻まれている。濁り水を好むというか、タカリ根性を示したものだろう。

■周知のように、モリカケ問題の当事者である森友氏と加計氏との最終結末は天地の差異がある。解説するまでもないが、一方は刑事／民事訴訟の対象になり、一方は、まんまとやってたり／万事結果オーライ、言うことなし。訴追されている方は、当該土地物件の現状回復作業がされている。ところが、こちらこそ原状回復をすべきだと思える加計学園には一切の手が付けられていない。どう考えても理不尽この上もない。

■これを自民党員はどのように見ているのだろうか。いずれの党員も、自らがタカリの毒饅頭にありつけた暁には、加計学園の扱いを受けられると踏んでのことか。森友学園は、甘え方／タカリ方が下手なだけだったに過ぎないとでも総括しているのだろうか。時の権力におもねる人々がいるのも歴史の常であるとは言え、あまりにも露骨過ぎる。懲りない面々の行動パターンだと言ってしまえばそれまでだが、お粗末な自民党総裁選だった。

■いずれにしても、権力トップ層が腐敗すると、様々な腐敗が起こる。様々なタカリが発生すると言っていい。かつて日本の基幹産業と言われた鉄鋼素材の品質基礎データが改竄されていたと思いきや、今現在の基幹産業とも言える自動車業界で、部品装置／素材データの改竄だけでなく、走行時における排気ガス／燃費に関わる品質基礎データの改竄が次々と明らかになっている。これも長期自民政権のタカリ許容政治の冰山の一角だろう。

■とにかく、大金持ちはいなくとも小金持ちの増えた日本では、小さなタカリが横行し、結果、国総体としても隅々にまで腐敗が蔓延し、次々と表面化してきている状況だ。小さなタカリ／甘えを是とした国民には、その一つひとつを正すより、機会あらば我もその恩恵に与りたいと期待しているがごとくである。安倍政権の存続を強く押し出すこととなった自民党総裁選に、その国民品性が凝縮して表れているよう思える。（藤見）